

令和 8 年度 第 1 回江南市地域福祉計画推進委員会 会議録

日 時：令和 8 年 8 月 1 0 日（月） 午後 2 時 0 0 分～ 3 時 3 0 分

場 所：江南市役所 2 階 大会議室

出席者：会 長	柏原 正尚	副会長	武田 篤司
委 員	中村 祥	委 員	大山 智久
委 員	村瀬 晴美	委 員	大池 泰子
委 員	青山 多佳子	委 員	永田 裕美子
委 員	畑田 満	委 員	三ツ口 文寛
委 員	伊代田 誠二		

欠席者：委 員 中野 実 委 員 高橋 正博

事務局：江南市ふくし部長、地域ふくし課

江南市社会福祉協議会事務局

傍聴者数：2 名

1. 会議次第

1. あいさつ
2. 第 2 次計画の令和 7 年度の実績・評価等について及び令和 8 年度各指標における目標値について（資料 3）
3. その他

2. 会議経過

1. あいさつ

（会長）

皆さんこんにちは。暑い日が続きますが、委員の皆様にもこの暑さに負けないくらい熱い議論をしていただければと思います。よろしくお願いします。

2. 第 2 次計画の令和 7 年度の実績・評価等について及び令和 8 年度各指標における目標値について（資料 3）

（事務局）

資料 3 のうち基本目標 1 （1 ページから 6 ページまで）を説明

（会長）

意見・質問の有無を確認

（会長）

昨年も話をしたが、1 ページから 3 ページの指標は回数だけで評価をするのが難しいというところで、現状分析と課題には丁寧に数字も入れてあるので分かりやすくなっていると感じる。こうした部分も皆さんと共有しながら、確認をしていきたいと思うが気づいたことはないか。

(委員)

4 ページの社会福祉関係の団体数、参加人数のなかで、4 年度から全体的に増加傾向にあり、7 年度も目標値 220 人に対して実績値は 240 人と目標は達成している中で 8 年度以降の目標値は減らしているがこれはどういう意図があるのか。

(事務局)

どの団体においても構成員の高齢化は課題となっている。新規に加入される方もいるが、それ以上に辞めていく方が多くなることが予想されるため、今後の減少を食い止めるという観点から、最終の 11 年度まで 170 人を維持しつつ、活動を支援していくという目標を持っている。

(会長)

上段の団体数が現状 13 団体であるが、この団体数が増えるといった局面があれば参加人数も上向きになる可能性もあるかと思う。今後の数年間現状を出来るだけ維持していくという意図はあると思うが、5 ページ、6 ページなどの人数が増えていることから、こういう方たちが団体として活動を進めることを支援する中で、新たな担い手を獲得できる可能性はあると思うがどうか。

(事務局)

5 ページ、6 ページの人数の増加を見ていくと、地域福祉に貢献したいと潜在的に思っている方は一定数存在すると考えられる。ただしその方たちが団体に加入して活動をしていくかと言うと、役員をやらなければならなくなるとか、構成員としての活動に対する責任が出てくるなどの問題が出てくるため、それは避けたいと考えている方が多いと感じている。こうした方たちに団体活動をしていただくためのアプローチの仕方は未だ手探りの状態であり、結果に結びついて行かない所は課題だと考えている。

(会長)

この会議が活動計画を含めた会議であることの意義として、こういう方たちに既存の団体に入っていたり、新たな団体活動を始めた小さな団体を育てたりということを社協中心で行って、この計画期間中にその芽が出てくれば良いと思う。

(事務局)

7 ページ以降の話になるが、生活支援コーディネーターが支援をしている団体数として、サロンなどを運営する団体数は増えている。友達同士とか小さな輪の団体ではあるが、活動の輪は広がりつつあると感じている。一方で公的な大きな枠組みでの団体活動は広がっていかないところがあるため、こうした小さな地域での取り組みに軸足を移して支援の輪を広げていくという方向性も考えなければならないと感じている。

(会長)

新たな担い手の掘り起こしというところで、5 ページのボランティア養成講座の参加者数は増えているし、6 ページのボランティア保険の加入者も増えているが、これを団体活動に繋げていくことについてはどうか。

(事務局)

先ほどの話にもあったが、サロン活動を始めとした小さな活動団体は増えている。その活動を一緒にやっていく中で、関係性をつくりながら、大きな団体の活動に対して関心を深めてもらったり、活動の接点を作っていくことが新たな担い手の確保につながっていくと考えている。社協で今、キッチンカーを使ったこども食堂の活動をしているが、組織に加入するのではなく、手伝いならやってみたいという声を頂くこともある。こうした活動をICTの技術を使って広めていくことで、活動への接点を増やしていきたいと考えている。

(会長)

ICTの話が出たが、5ページのボランティア養成講座の参加者数の取り組みの所にICTの活用が書いてある。どのように活用して参加者増に繋げているか説明をお願いしたい。

(事務局)

養成講座という形で正式に募集しても集まらないことが多いため、いろいろなグループの活動に体験的に参加できる枠を設けて、活動を体験する機会を増やしたり、ICTを使って活動紹介を見てもらう機会を作ったりして、それを養成講座に位置付けていくなど、参加者の実態に合う形にしていくことで、関心を高める取り組みをしている。

(会長)

既存の講座のやり方では掴み切れないところを、やり方を工夫して拾い上げているということであるが、その後継続した活動に繋げていくにはもう一工夫が必要であると感じる。いろいろな形で個人の活動したいという思いを汲み取ることは出来ているが、その後担い手として支援することが大事だと感じる。

(委員)

2ページの地域福祉懇談会について、民生委員・児童委員の方はそれぞれの地区でかなり参加しているが、区長・町総代の方や若い世代の方の参加が少ないと感じる。地域に対して周知する場合に、テーマに即したデータや過去に話し合った内容などを細かく示すことで、多様な方たちの関心を引いて、それぞれの立場からの意見を届けて貰えると良いと思う。また、開催回数は1回となっているが、同じテーマで年に2回ぐらい出来ると、話し合いが深まっていくと感じる。

(会長)

評価としては1回という回数で評価をしているが、開催の前に各団体にテーマを周知して、意見を集約したものを開催時に届けてもらうような工夫も大事なかなと思う。

(事務局)

近年のテーマを振り返るとどうしても高齢者を取り巻く困りごとがテーマになりやすいことと、開催が平日の日中であることなどから、若い世代の参加が少ない結果となっている。この会議は各団体の代表の方に出ているが、テーマについて各団体からの声を集約して届けていただけると、懇談会の中でも参加者で共有することが出来ると考えているので、ご協力をお願いしたい。

(事務局)

資料3のうち基本目標2（7ページから11ページまで）を説明

(委員)

11ページの民生委員・児童委員の年間訪問・連絡活動件数は目標値が年々150件程度下がっているが、高齢化により活動がしにくくなっていくとか、担い手が不足していくなどの要因があるのか。

(事務局)

この目標値は第2次計画を策定した時から、あり方について議論をしてきた経緯もある。民生委員・児童委員は昨年度の改選期を迎えた際に、担い手の不足という問題があった。また、現在の状態で負担が過重であるとの声をいただいたこともある。こうした中で高い目標値を掲げ続けることが可能かどうかという議論をしてきたが、やはり実態に合わせていくことが必要であるという結論を得ながら、減少を出来るだけ食い止めていくという内容を含めて、減少傾向の目標値としている。最終年度の3,950件という数字が少しでも上振れていくように活動の支援をしていきたいと考えている。

(委員)

確かに目標値が下がっていることを有難いと思う民生委員・児童委員の方もいると思うが、熱意ややりがいをもってしっかりと活動している方もいると感じている。担い手不足の関係もあるが定年の75歳を超えても頑張っている方もいる。今後も活動への支援をお願いしたい。

(会長)

4,000件近い目標値は一人ひとりの民生委員さんの活動の積み上げでこういう数字になるが、決められた回数をそれぞれの委員さんに課すことは望ましいことではないと考える。会議に出て情報交換したりすることも大事なことで、質の高い活動に繋がっていくという側面もある。他の団体でも同様で、今まで通りの活動で本当に良いのか、質の高い活動を継続していける仕組みを追求していくことが今後は大事ではないかと思う。

(委員)

民生委員の活動というのは基本的にボランティアなのか。活動内容も併せて教えて欲しい。

(委員)

民生委員の活動の一番はやはり地域の身近な相談相手ということだと思う。各地域で暮らしている一市民であるが、厚生労働大臣から委嘱状を貰って活動するボランティアである。交通費や通信費などの活動費は県や市から貰っているが、全くの無償ということではとても活動は出来ないと思う。活動の記録は毎月市に提出しているので、その積み上げが実績値として資料に出ているが、専門家ではないので地域住民のお困りごとを聞いて専門機関に繋げたり、地域の見守り役というところが活動の中心である。特に今のような暑い時期には高齢者に対して電話でも訪問でもいいから声をか

けて、確認をするように徹底している。また 147 名いる中で、12 名は主任児童委員ということで、学校運営に特化した、地域と学校との繋ぎ役を務めている。それでも未だに自分の地域の民生委員が誰か知らないなど、認知が進んでいないと思うこともあるので、活動をさらに広く周知していくことが課題だと感じる。

(委員)

平均年齢はどれくらいなのか。

(委員)

主任児童委員は現役世代が多く、50 歳代であるが、それ以外の民生委員の平均年齢は 70 歳代に近いと思う。50 歳から引き受けて貰えれば 30 年近く活動できるので、そういう世代の方にぜひ引き受けて欲しい。

(会長)

都市部では深刻な担い手不足により欠員が常態化しているという話も聞くが、江南市が定員を充足して活動をされていることは大事なことだと思うし、この会議でお話いただいた活動の内容や担い手不足の問題も含めて、参加者の間で情報共有していくことは重要である。

(委員)

7 ページの現状分析と課題にSDG s 官民共創プラットフォームという言葉が出ていて、今後の取組み方針には「住民参画・官民連携」を新たな柱とし、と書かれているが、どのようなイメージを持っているか。これまでの具体的な活動事例などがあれば教えて欲しい。

(事務局)

江南市は SDGs 未来都市宣言を行っているが、その取り組みの一つとして SDG s 官民共創プラットフォームという仕組みを作っている。これは江南市が抱える様々な地域課題と SDGs パートナー登録制度に登録している民間企業などが提供できるサービスをマッチングするシステムで、福祉の分野だけでは把握し切れていない多様なサービスを地域課題と結びつけることが出来るものである。官民が連携した具体的な活動事例としては、市と社協とマックスバリュ東海の 3 者協定で実施している移動スーパー事業や、平和堂で行われている地域の共創スペースの提供などがある。

(事務局)

資料 3 のうち基本目標 3 (12 ページから 19 ページまで) を説明

(委員)

14 ページの家庭児童相談等件数は目標値が 2,800 件のところ実績値は 2,017 件と達成率が悪くなっている。カウント方法を見直したと説明があったが、8 年度以降の目標値は 2,800 件のままで良いのか。

(事務局)

6 年度の実績値である 2,856 件から 7 年度は 2,017 件と大きく減少しているのは説明したようにカウント方法を見直したことが理由である。8 年度以降の目標値を

2,800 件のままにしているのは、ウィステリアプラザのオープンに伴い、市内児童館を1カ所に集約したことで、余剰人員が生まれたことを利用して、あらたな相談窓口をプラザの新児童館に設置したため、件数が増加することを予想していることが理由である。

(会長)

説明の内容を聞いて理解できるが、新しい相談窓口でどれくらい増えたかがこの表現では分かりにくい。かっこ書きなどで表現するなど、分けて表現した方が分かりやすいと思うので担当課と相談して欲しい。

(事務局)

ご指摘いただいた点については、担当課に伝えた上で数値の表示方法について検討する。

(委員)

15ページの保護の廃止世帯数は大きく減少しているが、理由として複合的な課題を抱える世帯の増加と課題や今後の取組み方針に書かれている。現状と生活保護自体の全体数がどういう傾向にあるか説明して欲しい。

(事務局)

生活保護の全体的な傾向としては、微増傾向にある。廃止件数が減少している原因として、記載してあるように複雑な課題を抱える世帯が増加していることはあるが、もう一つの要因として高齢者世帯で年金受給が叶わない世帯が増加して、就労等による自立が図れないことが挙げられる。

(会長)

廃止の件数を指標としているが、今のように全体の状況がどうなっているか、全体的に増えているか減っているかが分からないと評価はし難くなってしまう。現状の所にそういった全体の状況を書いてもらえると分かりやすい。

(会長)

16 ページ、17 ページで障害のサービス利用者は増え続けているとある。詳細は障害福祉計画の範疇であるが、ニーズの受け皿とか担い手の確保の問題は大丈夫なのか。

(事務局)

地域福祉計画の下位計画となる障害福祉計画は現在次年度以降の3年間に向けて計画策定を行っている。16 ページ、17 ページで増えている障害者、障害児のニーズを支える事業者も増えているため、多くの事業者から選べるという状況ではないが、受け皿が無いという状況には至っていない状況である。担い手不足の懸念について、意見があったことは担当課に伝えていく。

(会長)

社協で行っている地域福祉教育の活動により、地域において意識醸成がされれば、そこから新たな担い手が生まれるかも知れない。将来的な福祉の仕組みづくりに繋がっていく可能性もあるので、こうした活動も続けていって欲しい。

(委員)

16ページ、17ページで必要な人が必要な福祉サービスを受けられているとされているが、サービスを江南市の事業者で賄えずに、近隣市町の事業者を利用している事例もあるため、江南市で充足しているという感覚はない。医療的ケア児についても同様に、全てのニーズが江南市で充足されているのかと言うと違和感がある。

(会長)

全てのニーズを江南市で担っているかということであるが、視点を変えて近隣の市町で連携して支え合っているような仕組みを作るという考え方もあると思うので、分野の計画を策定していく中で検討して欲しい。

3. その他

(事務局)

机上配布資料の説明

- ①ウイステリアプラザのパンフレット
- ②社会福祉協議会の活動紹介
- ③江南キッチンカーこども食堂
- ④社協こども食堂
- ⑤移動スーパー事業
- ⑥地域の見守り冊子

(会長)

意見・質問の有無を確認

【終了】